

提出いただいたご意見等と村の考え方

第2期小笠原村いのち支える自殺行動計画

番号	ご意見の内容	村の考え
1	<p>母島島内では昨年10月ぐらいからぼつぼつと「高齢になったら特に痛みや苦痛を伴わずにぼっくり行きたい」「高齢という人生設計にあっては、なぜ自死という選択肢がないのか」という比較的ネガティブとも受け取れる意見というか話を耳にすることが多かった。</p> <p>自らの命をどのようにするのかの選択について考える良いきっかけとなったがとても一人で考えて回答を導き出せるだけの見識もなく、また誰に相談すれば良いのかもわからず他人から聞いた話ではあるがどうにも不完全燃焼でいて少し気味が悪い。</p> <p>人権について深く考える場や機会が村内や島内にはないのが惜しい。</p>	<p>心の悩みを抱えている方が、安心して相談できる窓口の充実に努めるとともに、高齢者の交流の場を確保し、問題を抱える高齢者の早期発見に努めているところです。「心豊かに生きることのできる村づくり」を目指し、第2期計画においても、相談窓口や交流の場に関する情報を多くの方に届くように取り組んでまいります。</p> <p>頂いたご意見は、事業検討にあたり参考とさせていただきます。</p>
2	<p>小笠原村はほかの市町村に比べて若年層が多く、その若年層に自殺者が多い。本人の努力だけでは解決できない問題が多く、相談してもどうにもならず、どうしていいかわからない。小さな島は人の目が気になり、自己肯定感が得られない。人生の選択肢が少なく、若年層は狭い社会の中で、孤立すると生きていけないと思いつむ。まず、第三者のカウンセラーが必要である。20代・30代の若者に対して、カウンセラーに加えてシェルターが必要である。島では、職がなくなると住むところがなくなる。自殺の懸念がある人は、苦しいのを打ち明けられず、支援や相談ができず一人で悩んで追いつめられることも多い。「助けて」と発信できないでいる。そういった隠れた自殺予備軍をどうやって拾い上げていくのか、相談コーナーを作って待っているだけでいいのか。</p>	<p>村におきましても、悩みや生活上の困難を抱えている方に対して、早期の「気づき」は非常に重要であると認識しております。ご提案いただいた、具体的な方策につきましても、貴重な意見として参考にさせていただきます。</p>